

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 川端 浩平

提出年月日 平成 24 年 3 月 30 日

【プロジェクト名】

和文 地域社会で不可視化された領域を考察するための〈方法としてのジモト〉

英文 Alternative approaches for researching invisible spheres in the local community

【メンバー構成】

研究代表者 川端浩平

幹事 森田次朗、渡邊拓也

メンバー 平田知久、越智正樹、孫・片田晶、芦田裕介、金泰植、響田竜蔵、谷村要、松村淳

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、地域社会で親密圏と公共圏が再編成される過程において不可視化されている領域を「ジモト」として考察することを通じて、これまでの地域社会を対象とした研究調査において焦点を当てられることがなかった、もう一つのジモト像を様々な場や人びとの営みから描き出すことを試みる批判的アプローチである。特に、以下に強調する 2 点を軸に、方法としての「ジモト」の枠組み構築を目指した。

本ユニットが対象とする地域社会をめぐる様々な研究蓄積があり、その大半は、地域社会で生活する人びとや資源に着目しつつ、それらの可能性をエンパワーする視座からの取り組みである。しかし、第一に、それらの研究においては、地域社会に存在するネガティブな側面を描いてくることはなかった、もしくは捨象してきた。第二に、地域社会という概念が社会統合や包摂の意味合いを持つ場面では、マイノリティの存在が認識されていない。マイノリティの存在そのものがある種の地域資源とみなされる場合もあるが、その場合には当該地域社会もしくはホスト社会の外部に位置づけられるのであり、地域社会そのものの変容という認識とは結びつきにくい。以上のような問題意識を踏まえて、本ユニットでは、申請者とユニット協力者たちがこれまで関わってきた研究調査の事例や運動の実践の場を通じて携わってきた地域社会とともに、それぞれの出身地や現在生活している地域社会など、何かしらの地縁を有する場やそこで生活する人びとを対象とした研究調査を行った。ただし、ジモトという領域を明らかにするための実態調査ではなく、より包括的かつ多角的な視点から地域社会をめぐる現象を批判的に分析する方法としてのジモトに関する理論的枠組みの構築をめざした。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

各メンバーは、7月末までの数回のミーティングを経て下記の調査テーマに従ってフィールド調査を行い、その成果は、下記の研究会と報告書（別添）を通して公表している。

【調査テーマ】

轡田：地元で平凡に生きること（岡山県北部の中山間地で生活する若者の労働や消費などをめぐる世界観）
芦田：田舎に滞留する若者（岡山県北部の農家のセガレの世界観）
森田：フリースクールに居場所を見出した若者（京都／大阪）
川端：地域表象が前景化することによって、描かれることのないマイノリティが抱える問題（岡山市）
金：参政権（韓国）をめぐる現れる「祖国／ジモト」についての語りと政治（ソウル／東京）
孫：在日朝鮮人の社会運動とアイデンティティの語りのなかのジモト（大阪府吹田市など）
谷村：アニメ『らき☆すた』を用いたまちづくりと聖地巡礼（埼玉県鷲宮町）
平田：KEY半島（紀伊半島）における観光戦略と聖地巡礼（和歌山県和歌山市）
渡邊：大曾根商店街（オズモール）のまちづくりと失敗（愛知県名古屋市）
松村：地方都市で「建築家」を志す人びとの自己実現と世界観（香川県高松市）

【研究会】

■ 7月29日

- ・川端浩平「ジモトを歩く——身近な世界を調査するための方法」
- ・轡田竜蔵「批判的ジモト主義」

■ 10月28日

- ・松村淳「『割に合わない仕事』を続ける理由——建築家／建築士の仕事に内在する「やりがい」を生み出すシステム」

■ 12月18日

- ・森田次朗「ジモト研究とフリースクール」
- ・芦田裕介「農村空間の商品化に対抗する「田舎暮らしの主体性」についての考察——現代農村に生きる若者の生活史から」

■ 1月20日

- ・渡邊拓也「魔法使いの遺産——まちづくりはなぜ失敗するのか」
- ・平田知久「KEY半島と聖地巡礼」

【成果の概要】（800字程度）

本ユニットは、地域社会において親密圏と公共圏が再編成される過程において不可視化される領域を「ジモト」として考察する批判的なアプローチから身近な世界の問題を客観的に把握、公共化することを目指した。各ユニットメンバーは、生活当事者（利害関係者）として地縁のある場所とそこで生活する人びとを対象とした。大別すると、（１）出身地（川端、渡邊、平田、芦田、松村）と（２）現在生活している場所、研究フィールド等（饗田、越智、森田、谷村、金、孫）で、「地域社会をめぐる現象（地元志向現象）において何が不可視化されているのか」、という問いを踏まえたフィールド調査を行い、発表・報告書の執筆を行ってもらった。暫定的なものであるが、メンバーの研究は以下の３つの方向性へと整理することができ、今後のジモト研究において論点や枠組みを整理していくことになる。

- （１） ジモトで不可視化される若者たち
- （２） ジモトで不可視化されるマイノリティ
- （３） 可視化されるジモト（地元志向現象）

以上の暫定的な整理から分析できることは、マジョリティ／マイノリティ双方の現実と地元志向現象みられる地域表象には乖離があるということである。つまり、言説レベルにおける地元志向現象は、必ずしも実態を反映したものとはいえない。むしろ、まちづくり等を通じて地域愛は人工的につくりだされ、可視化される。脱領域的だと考えられる諸個人と地域との素朴な次元における「ジモト」という帰属の意識や紐帯がより社会統合的な概念である地元と結びつき、包摂（領土化）されることによって不可視化されていることが明らかになった。

暫定的な問いに対する結論としては、いわゆる地元現象においては、生活当事者（利害関係者）＝ジモトの視点が欠如しているということである。フラット化する現実（グローバル化）という認識に基づき、それに対して地元志向を駆り立てる言説が要請されているが、そもそも、グローバル化 VS ローカル化という二項対立的な設定は実態的な意味での現実を捉えていない。むしろ、二項対立を指定することによって、不可視化される様々な変数（階層、地域性、マイノリティ、ジェンダー等）と結びつけて実態把握することを妨げており、その領域に介入していくことが本ユニットの次年度以降の課題となる。

【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	800（千円）	実績額 790,516（円）

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する
許諾書

研究成果タイトル

<グローバル VS ローカル>言説に回収されるジモト

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2012 年 月 日

最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）
の執筆者全員のお名前（自署捺印）

記

- 許諾する。
- 部分的に許諾する。
許諾する部分を具体的にご記入ください。
- 下記の理由により許諾しない。
 - 調査対象者の個人情報保護のため
 - その他（具体的に理由をご記入ください）